後期計画の策定に向けた地域検討会議（第３回）胆江ブロック 会議録
【胆江ブロック：奥州市、金ケ崎町】

○　**日　時**：令和元年８月２日（金）14 時 00 分～16 時 00 分
○　**場　所**：江刺生涯学習センター　２階　204、205 会議室
○　**出席者**
　①　会議構成員
　　奥州市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
　　金ケ崎町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
　②　事務局（県教育委員会）
　　県南教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）
　　県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）
○　**傍聴者**：一般４人、報道２人
○　**会議の概要**
　◆　**議題及び報告事項**
　１　胆江ブロックの状況について
　【県教委】
　・　資料 No. １「胆江ブロックの状況について」に基づき説明。

　２　後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞ 各地域における学校・学科の配置について

【県教委】
・　まず、ブロックの現状及び課題等、議論の方向性について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】
・　資料「後期計画策定に向けた意見交換（胆江ブロック）」に基づき説明。

【小野寺　金ケ崎町副町長】
・　胆江地区でどのような学校、学科が必要かという質問であるが、現状から必要な学校・学科という意味か、今後の社会情勢の変化を見据えた検討となるのか伺いたい。

【県教委】
・　将来を見据えた御意見についても伺いたいと考えている。

【県教委】
・　それでは、１点目「現状を踏まえ、今後、胆江ブロックに必要な学校・学科について」に関する御意見をいただきたい。

【菊池　奥州商工会議所事務局長】
・　胆江地区は、胆沢高校や岩谷堂農林高校の再編が行われたものの、中学生の他地区への転出数が多い状況に愕然としている。生徒数は減少しているものの、胆江地区内の中学生が地元の

高校に進学するのであれば、欠員等の問題は解消されると資料から見てとれる。

・　他地区の学校に約５学級分の生徒が転出している状況は学科の配置の問題か、あるいは地区内の学校に魅力を感じないのか、理由は様々考えられるが、課題への対策が必要と考える。

・　現在、胆江地区は非常にバランスの取れた学校、学科の配置と考えられ、小規模校における少人数教育についても、きめ細かな教育ができるという点でメリットがあると考える。

・　現在、胆江地区内に普通科高校が３校あるが、それぞれの違いや特色が分かりにくい。総合学科についても、専門高校との違いがわかりにくく、学科の特色や内容を生徒や保護者にわかりやすく伝える必要がある。

【田面木　奥州市教育委員会教育長】

・　学校、学科の特色を前面に打ち出す必要があり、普通科高校のあり方についても考えていく必要がある。ＡＩ、ＩｏＴなど新たな時代に向けた議論を進める必要がある。

・　義務教育においても、プログラミング教育が導入されており、普通科高校に最先端の学科を設置しても良いと考える。また、普通科高校の中でも医学部への進学や科学技術分野に特化したコース等を設置しても良いと考える。

・　胆江地区から他地区へ転出する生徒が非常に多く、５学級分の転出は大変な問題である。中学生アンケートを見ても転出の理由はわからない。地区内に学科がバランス良く配置されている状況の中で、県教委としては原因をどう捉えているのか伺いたい。

・　胆江地区内の学校、学科についてはすべて必要であると考えるが、７校中６校が定員を満たしていない状況であり、学級減を進めるべきである。入試における生徒間の競争率の低下は、学力の低下につながると考える。

【県教委】

・　普通科のあり方については、政府の教育再生実行会議においても議論されているところであり、科学分野やグローバル社会への対応、地域の課題解決などの提言に関して、今後、国の方針が示されるものと思うが、その時期と後期計画の策定時期とは、微妙なタイミングになるが、国の動向を注視していきたい。

・　胆江地区の転出超過の原因について、分析は難しい部分ではあるが、胆江地区は交通の便が良いことから、将来の進路や部活動等によって広域の中で高校を選択していること等が理由として考えられる。

【遠藤　胆江地区中学校長会長（金ケ崎町立金ケ崎中学校長）】

・　胆江地区内の中学生は、交通の便が良いことから、地区内の学校に進学するという考え方が定着しているかは疑問に思うところがある。

・　胆江地区の高校が、地域の特色を生かした人材をどう育てるか、地域の需要に対応し、生徒達を引き付けているかについては疑問に感じることがある。生徒の転出超過は、生徒が学びたいと思う魅力のある学校づくりをしていかなければ、今後も地区外への生徒の転出が続くと考える。

・　高校の小規模化により様々な活動が制約されることで、他地区への生徒の転出が続くことは今後も想定され、高校の統合等を考える前に、生徒に対し、高校の魅力を伝える取組が必要である。高校の魅力を十分に発信する前に、数合わせ的な学級減や統合はするべきではない。

・　水沢高校は、スーパーサイエンスハイスクールに指定されており、それを理由に水沢高校を志望する生徒もいると考えるが、今年度、一関第一高校も指定され、県南地区に指定校が２校となったことから、両磐地区への生徒の転出の増加が考えられる。この地域に必要な学校、学科のあり方を示していくことが必要と考える。

【及川　金ケ崎町立金ケ崎中学校ＰＴＡ会長】

・　普通科高校では、進学指導において、県外への大学進学を進めるという話を聞いている。一度地区外へ出た生徒は、地元に戻ることが少ないことから、地域の良さをさらにアピールする教育も必要と考える。
・　自身の周りにおいても、岩手中部地区へ進学している生徒が多い。胆江地区の高校に魅力を感じないことから他の地区に進学しているように感じており、もっと地域を大事にした高校づくりをしていただきたい。
・　特に、普通科高校では進学を重視した進路指導を行っているが、生徒の将来の希望を重視し、進学指導のみに偏らない指導を行ってほしい。

【阿部　奥州市認定農業者協議会会長】

・　胆江地区から盛岡や両磐地区への生徒の転出が多いことは交通の便もあると考えられるが、胆江地区は設置学科も多く、選択肢が多い状況の中で単純に他の地区を選択することはない。胆江地区の学校が本当に魅力ある学校づくりをしているのかは疑問であり、他の地区の高校に魅力があるから生徒が転出すると考えなければならない。
・　各高校においては、魅力ある学校づくりに向け積極的に取り組んでほしい。

【小原　産直かねがさき店長】

・　皆さんの意見のとおり、自分も今の胆江地区の高校に魅力を感じない。胆江地区の高校に魅力がないことは地区にとってもショックなことであり、地域の行政や住民が魅力化を考えていくことが必要である。
・　金ケ崎町は金ケ崎高校との関わりは少ないと考えるが、生徒を地域に残すために地域の行政が県教委や学校と意見を交わすことが必要である。

【石川　奥州市ＰＴＡ連合会会長】

・　高校のオープンキャンパスの時期を迎えているが、他の地区の高校に魅力を感じている生徒も多い。他の地区の高校では生徒に対し、高校の楽しさを伝える努力をしている。生徒の転出が多い中、地区内の中学校では、地域との協力体制や教員の高校進学に対するアドバイス内容が伝わってこない。地域の中学校は生徒に対し、地域の魅力を伝える取組をしているのか伺いたい。
・　学級数の減少は最終的には統合や閉校に繋がることから、地域に生徒を残す方法を考える必要がある。胆江地区に普通科高校が３校あることは多いと感じており、保護者としては入学後の興味、関心に応じて教科、科目を選択できる総合選択制高校に興味がある。

【遠藤　胆江地区中学校長会長（金ケ崎町立金ケ崎中学校長）】

・　中学生へのアドバイスについて、地域での農業や工業体験の他、小中学校で連携し、地域の課題等を考える取組を行っており、金ケ崎町のみならず、奥州市でも地域を考える取組を行っていると伺っている。
・　中学生が高校を選択するにあたり、現在の生徒は、地域の学校に進学したいとは強くは考えていない。生徒の進路希望が胆江地区の学校となるために、どうすれば良いか皆で考える必要がある。中学校としてもなるべく地元の高校への進学を導きたいと考えるが、今の生徒達は先輩等の進学の状況により判断している傾向もある。

【千葉　金ケ崎町教育委員会教育長】

・　今の中学生は、自分の人生について、どこの学校で学べば有利となるのかを考えている。昔

は進路の選択肢が狭く、制約がある中で高校を選択していたが、今は行きたいと思えばどこでも進学できる時代である。生徒自身が、将来の希望を持って高校を選択しており、通学時間についても、通えるのであれば地区外であっても希望するものと考えている。

【県教委】

・　それでは、次に２点目「中学校卒業者数が後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から学校統合で対応する考え方等について」に関する御意見をいただきたい。

【田面木　奥州市教育委員会教育長】

・　難しい課題であるが、このままだと生徒数の減少は目に見えている。学級数は減らすしかないと考えるが、少人数教育や、学校の魅力づくりと一体で考える必要がある。

・　転出超過がなければ、統合等について、しばらくの間は検討する必要はないと考えるが、街に活気がなく、生徒が街から出たいという別な要素もあるのではないかと考える。同じ学びをするのであれば他の地区でと考える保護者も多いのではないか。保護者の考えについても調査を行う必要があるのではないか。

【県教委】

・　専門高校では、教育環境を維持するためには最低２学級が必要と考えており、１学級になると教員の配置が難しくなる。小規模校化を解消するため、大規模な総合的な専門高校の設置により生徒に活力を与えるべきとの意見はないか伺いたい。

【田面木　奥州市教育委員会教育長】

・　そういった観点であれば統合も必要ではないか。花北青雲高校などはうまくいった例である。工業学科、商業学科間の連携を図ることができる学科等の見直しを含めた、学校規模を維持するための統合は必要と考える。

【千葉　金ケ崎町教育委員会教育長】

・　専門高校については、学科数が少なくなると学校の活力が低下するものと認識している。学ぶ内容の異なる学科間の競争も必要であることから３学級は必要と考える。

・　総合的な専門高校は必要であり、他県でも設置が増えている状況にある。

【菊池　奥州商工会議所事務局長】

・　生徒が地域に残るための取組が先であり、統合等については、その後の議論と考える。

・　内陸の農業高校３校のうち、水沢農業高校だけが定員を充足していない状況であり、学校の特色が欠けているものと考えている。今後 15 年先を考えれば、どの分野の対策が必要で、どの分野の学びを伸ばしていくべきか、特徴を前面に出していくことが必要と考える。

【小野寺　金ケ崎町副町長】

・　地域の行政も努力が必要という意見はそのとおりと考える。地域に活力がなければ人が集まることはなく、地域の活性化が高校の活性化にもつながると考える。県立高校に対し、地域の行政がどの程度踏み込んでいけるか難しい側面もあると思うが、検討は必要と考えている。地域が一体となり検討していかなければならない。

・　生徒への選択肢を維持する観点から、現状の学校の配置は変えない方が良い。学級減は仕方

がないと考えるが、統合せずに済む方法を検討する必要がある。

【遠藤　胆江地区中学校長会長（金ケ崎町立金ケ崎中学校長）】

・　学級数の調整、統合の二者択一ではない。中学生が高校の選択に迷う状況は避けるべきであり、学級数の減、統合のみで考えるのは危険である。

【県教委】

・　学級数の調整、または統合については、生徒数が減少する中で、学校の維持が難しくなることを想定し、今後の高校再編を考える上での選択肢の例として示したものである。

【石川　奥州市ＰＴＡ連合会会長】

・　外に視野を広げるのが今の時代の生徒である。他の地域に進学した生徒の声を聴く機会があったが、後悔している生徒が大半である。ある生徒は、自宅から駅までの通学の他、電車での長距離通学を含めると通学だけで３時間を要し、学習時間も確保できない状況と聞いている。
・　生徒の転出状況等を確認するため、中学校３年生のみならず、高校生を対象としたアンケート調査を実施しても良いのではないか。
・　ＩＴ、ＡＩ等、先の時代を見越した専門学科等の設置も考えられるのではないか。

【阿部　奥州市認定農業者協議会長】

・　生徒の減少が続くのであれば、最終的には水沢商業高校、水沢工業高校、水沢農業高校の統合がイメージできるが、高校が無くなることは地域の衰退につながることから、どの市町村においても高校の存続は必要と考える。

【小原　産直かねがさき店長】

・　金ケ崎高校は令和２年度に学級減となるのか。

【県教委】

・　現在の公表案ではそのようになる。

【小原　産直かねがさき店長】

・　学級減が報道されるとますます入学者の減少につながると考える。金ケ崎高校は２学級となり、小規模の普通の進学校というイメージにつながる。学級減とする場合も、学校の魅力を伝える努力をした後、公表するようにしていただきたい。
・　少人数で丁寧に指導されている現状に対し、県教委からの支援を考えていただきたい。

【田面木　奥州市教育委員会教育長】

・　学校の魅力づくりについて、地区内にある私立高校の水沢第一高校は、かつて生徒が集まらない状況が続いていたが、現在は定員を超過する状況である。その理由としては、学校の魅力として生徒に対し、きめ細かく指導を続けてきたことが考えられる。現在の生徒は精神的に弱いことから、挫折を経験した生徒に対し、フォローを行う支援体制が魅力につながったと考える。
・　進学に特化した学科、コースの設置や学級定員の検討、大規模校の学級数を小規模校へ振り替えるなど、どのような対応ができるかについて考えていく必要がある。
・　将来の進学、就職を考え、生徒が学びたいことは何なのか、理解できれば対応が可能となると考える。胆江ブロックにおいては、ものづくり産業が重要であると考えており、魅力とする

ことが考えられる。

【県教委】

・　杜陵高校奥州校のあり方についても意見があれば伺いたい。

【遠藤　胆江地区中学校長会長（金ケ崎町立金ケ崎中学校長）】

・　杜陵高校奥州校はぜひ残すべきであり、無くなると困る生徒がたくさんいる。高校再編を考える時は、地域の学科の再編についても一緒に考えていただきたい。

・　学科にとらわれない横断的な学校や中高一貫校、何かに特化した学校の設置を検討しても良いのではないかと考える。

【県教委】

・　県立高校は、県教委の所管であるが、学校は、校長のビジョン、考え方により運営しているものであり、胆江地区内においても、各高校が様々な魅力づくりに取り組んでいる。

・　新学習指導要領では、地域との連携についても触れられており、地元の教育委員会等においても高校の魅力づくりに協力いただきたい。

・　後期計画は、令和３年度から令和７年度までの５年間の計画であるが、令和８年度以降も見据えた上で計画を策定したいと考えている。

資　料

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）【 胆江ブロック 】

出 席 者 名 簿

No	市町村等	氏　名	所　属・役　職　等	備 考
1	奥州市	阿　部　正　三	奥州市認定農業者協議会　会長	
2		菊　池　浩　明	奥州商工会議所　事務局長	
3		石　川　　剛	奥州市ＰＴＡ連合会　会長	
4		田面木　茂　樹	奥州市教育委員会　教育長	
5	金ケ崎町	小野寺　正　徳	金ケ崎町　副町長	代理
6		小　原　フミ子	産直かねがさき　店長	
7		及　川　あい子	金ケ崎町立金ケ崎中学校ＰＴＡ　会長	
8		千　葉　祐　悦	金ケ崎町教育委員会　教育長	
9	地区中学校長代表	遠　藤　宗　俊	胆江地区中学校長会　会長（金ケ崎町立金ケ崎中学校長）	

【オブザーバー】

No		氏　名	所　属・役　職　等	備 考
10	県議会議員	佐々木　　努	岩手県議会議員	
11	県立高等学校	及　川　晃　貴	水沢高等学校長	
12		畠　山　一　弘	水沢農業高等学校長	
13		細　谷　正　憲	水沢工業高等学校　副校長	
14		千　葉　　尚	水沢商業高等学校長	
15		藤　枝　　修	前沢高等学校　副校長	
16		及　川　研　一	金ケ崎高等学校長	
17		伊　藤　俊　也	岩谷堂高等学校　副校長	
18		佐　藤　　守	杜陵高等学校奥州校 副校長	

【県教育委員会】

No		氏　名	所　属・役　職　等	備 考
19	県教育委員会事務局等	時　枝　直　樹	県南教育事務所長	
20		伊　藤　勝　久	県南教育事務所主任社会教育主事	
21		梅　津　久仁宏	教育次長	
22		木　村　克　則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
23		里　舘　文　彦	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
24		藤　澤　良　志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
25		谷　地　信　治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
26		市　丸　成　彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
27		小野寺　一　浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
28		女　鹿　光　介	学校調整課高校改革担当主査	